

## iOS×BLE Core Bluetoothプログラミング正誤表

ページ数	該当箇所	誤	正
p15	本文1行目	Bluetooth Low Enery	Bluetooth Low Energy
p18	図1-1	コンテンツ	サービス
	本文1行目	図1-2では	図1-1のように
p20	本文下から2行目	Google grass	Google glass
p24	本文3行目	4,2980円	4,298円
p33	コンソール引用	gitclone	git clone
p34	本文5行目	KonashiResultFailre	KonashiResultFailure
p37	ソースコード引用	[Konashi pinMode: KonashiDigitalIO1 mode KonashiPinModeOutput];	[Konashi pinMode: KonashiDigitalIO1 mode: KonashiPinModeOutput];
	ソースコード引用	[Konashi pinMode: KonashiDigitalIO1 mode KonashiPinModeInput];	[Konashi pinMode: KonashiDigitalIO1 mode: KonashiPinModeOutput];
p39	本文9行目	onRSSI	onRSSITimer
p50	本文13行目	図3-1に示します。	図3-2に示します。
p52	本文5行目	3-2-8項	3-9-2項
p54	本文4行目	図3-9に示します。	図3-7に示します。
	本文6行目	Serviceへの参照子 (Reference)	Serviceへの参照子 (Referenceもしくは後述するInclude)
p55	本文5行目	図3-12のように、	図3-10のように、
p56	本文下から3行目	BLEにおいては、BLEは	BLEにおいては、
p58	図3-12	Observer	Scanner
p59	本文3行目	LinkLayer	Link Layer
	本文4行目	Advertsing	Advertising
	表3-1	Chanel	Channel
p60	本文下から3行目	GFSK: Gaussian Frequency-Shifted Keying	GFSK: Gaussian Frequency-Shift Keying
p64	本文2行目	図3-12に示すとおり	図3-17に示すとおり
p65	本文7行目	図3-20に示すとおり	図3-17に示すとおり
	本文下から5行目	信通	通信
p66	本文下から2行目	図3-21に示します。	図3-18に示します。
p67	図3-18	company_assined	company_assigned
	図3-19	Public device address	Static Address
	本文、2,3行目	Static Address	Non-Resolvable Private Address
p68	図3-20	Public device address	Non-Resolvable Private Address
	図3-20	Static Address	Non-Resolvable Private Address
	図3-21	Public device address	Resolvable Private Address
	図3-21	Static Address	prand
p69	本文7行目	検討	見当
	本文下から13行目	Advertising Intreval	Advertising Interval
p70	図3-22	ardDelay	advDelay
	本文下から3行目	Advertising Pcket	Advertising Packet
p71	本文7行目	scanWindows	scanWindow
	本文下から4行目	Scaning	Scanning
p72	本文下から1行目	Advertsing	Advertising
p73	本文、18,20行目	Advertsing	Advertising

ページ数	該当箇所	誤	正
p74	表3-5	0x30-0x07の内容欄を統合、0x08-0x09の内容欄を統合(p74.pdf参照)	
p75	本文2行目	Response Pcaket	Response Packet
	本文15行目	3-3-4項	3-6-5項
	本文16行目	Conection	Connection
	本文下から6行目	Scaning	Scanning
p76	本文下から3行目	Conection	Connection
p77	本文中段2行目	3-6-5項	3-6-6項
p79	本文4行目	3-6-7節	3-6-8項
	図中参照	3-9-13項	3-9-3項
p80	本文下から2行目	3-3-4節	3-6-8項
	本文下から8行目	SMP (Security Manage Protocol)	SMP (Security Manager Protocol)
p83	表3-8	Scaning	Scanning
p89	図3-39	パケット数の記載ミス(p89.pdf参照)	
p91	本文下から9行目	表3-12に示します。	表3-11に示します。
p96	図3-44	パケット数の記載ミス(p96.pdf参照)	
p97	図3-45	パケット数の記載ミス(p97.pdf参照)	
p100	図3-51	パケット数の記載ミス(p100.pdf参照)	
p104	本文11行目	Conection Oriented Channel	Connection Oriented Channel
	図3-55	Basic L2CAP Headerの範囲	Length,Channel IDまで
p112	本文下から6行目	3-2-4項	3-2-3項
	本文下から3行目	図3-xに示すように	図3-2に示すように
p113	本文6行目	図5-65(a)	図3-65(a)
p115	図3-67	Observer	Role
p118	本文3行目	SMP (Security Manage Protocol)	SMP (Security Manager Protocol)
	表3-17	SMP (Security Manage Protocol)	SMP (Security Manager Protocol)
p124	本文5行目	3-6-7項	3-6-8項
	本文中段行目	図3-74	図3-72
p127	図3-75	Client	Server
p128	本文下から3行目	図3-78に一例を	図3-76に一例を
p131	本文15行目	図3-81に示します。	図3-80に示します。
p132	本文1行目	図3-80に示します。	図3-81に示します。
	本文下から2行目	表3-22に	表3-21に
p137	本文8行目	NAttribute	Attributeを下付きに
	図3-90	Read Multiple Request	Read Multiple Response
p138	本文4行目	146	146ページ
p139	本文中段	サーバ上のAttributeIに書き出すためのAttribute Protocol PDUとして、ATTでは表3-23に示す3種類を定義しています。それぞれの違いについては表2-23のとおりです。	サーバ上のAttributeIに書き出すためのAttribute Protocol PDUとして、ATTでは3種類を定義しています。
p143	図3-102	左からAttribute Opcode(1octet) ,Attribute Handle	
p144	本文2行目	143ページ	140ページ
p153	本文3行目	表3-29に示します。	表3-27に示します。

ページ数	該当箇所	誤	正
p159	本文下から3行目	UUIDReconnection Address	Reconnection Addressを下付きに
p160	図3-122	UUIDReconnection Address	UUIDReconnection Address
		Reconnection Address	Reconnection Address
p163	本文2行目	表3-31に示します。	表3-29に示します。
p170	本文下から2行目	Read By Group Request	Read By Type Request
p171	本文下から2行目	ここで利用しているAttribute Protocol PDUについては3-9-3節の「Read Request/Response」、135ページおよび「Read Brob Request/Response」、133ページを参照ください。	ここで利用しているAttribute Protocol PDUについては3-9-3節の「Read Request/Response」、および「Read Brob Request/Response」、135ページを参照ください。
p173	本文3行目	表3-32に、	表3-30、
p178	図3-140	Notificationを示す矢印の方向が逆	
	図3-141	Infication/Confirmationを示す矢印の方向がそれぞれ逆	
p180	本文6行目	不要なテキスト(を参照してください。)をトル	
	本文下から1行目	不要なテキスト(を参照してください。)をトル	
	本文下から5行目	サーバ/クライアント間の通信の概略を図3-144に示します。基本的にはWrite Long Characteristic Valueと同様の手順となるので、Sub-Procedureの挙動については図3-137(175ページ)を参照ください。	サーバ/クライアント間の通信は、基本的にはWrite Long Characteristic Valueと同様の手順となるので、Sub-Procedureの挙動については図3-137(175ページ)を参照ください。
p182	本文6行目	AdvertisingPDU	Advertising PDU
p185	本文中段	MTUについては3-9-2「MTU(Maximum Transfer Uni)」や後述する3-11-3 項を参照してください。	MTUについては3-9-2の「MTU(Maximum Transfer Unit)」(122ページ)や後述する3-11-3 項を参照してください。
	本文下段	Device Name Characteristic については、「3-10-4. Device Name Characteristic」を参照してください。	Device Name Characteristicについては、3-10-4 の「Device Name Characteristic 値」(158ページ)を参照してください。
p191	本文中段	LongAttribute のデータを複数回にわけて送受信するために利用します(「3-9-3. Read Blob Request/Response」を参照)。	LongAttribute のデータを複数回にわけて送受信するために利用します(3-9-3、135ページの「Read Blob Request/Response」を参照)。
	欄外注	および 3-10-6「. MTUの容量を変更する(Exchange MTU)」(164ページ)を参照してください。	および 3-10-6項の「MTUの容量を変更する(Exchange MTU)」(164ページ)を参照してください。
p301	本文4行目	その間にシステムがアプリを停止したり、ユーザーが明示的に停止したりする可能性があります。	その間にシステムがアプリを停止する可能性があります。
	本文下から7行目	その間にシステムがアプリを停止したり、ユーザーが明示的に停止したりすると、	その間にシステムがアプリを停止すると、
p308	本文中段	と出たら、ホームボタンをダブルタップ、BLERestoreExampleCentralのプレビューを上にはスワイプしてアプリを停止します。	と出たら、XcodeのRunを終了します(これによりアプリが停止します)。ここでアプリを停止させたことを明確にするため、ホームボタンをダブルタップして履歴を削除する操作を行ってもOKです。
p313	本文中段	と出たら、ペリフェラル側アプリをインストールしたiOSデバイスのホームボタンをダブルタップ、BLERestoreExamplePeripheralのプレビューを上にはスワイプしてアプリを停止します。	と出たら、Xcodeの(ペリフェラル側アプリの)Runを終了します(これによりアプリが停止します)。
p343	欄外注	Chapter 11: ハマリどころ逆引き辞典	11. ハマリどころ逆引き辞典
p358	欄外注	「3-4-5. AdvertisingとScanning」内の「Advertisingインターバル」	「3-4-5. AdvertisingとScanning」内の「Advertising Interval」